

カテゴリー: 歯周治療

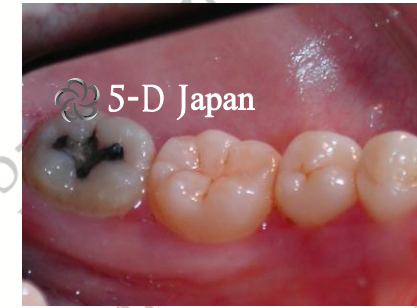
Key word: 再生療法, エムドゲイン, 骨縁下欠損

骨縁下欠損にエムドゲインと骨移植を併用し再生療法をおこなった症例

5-D Japan : 北島 一  
北島歯科医院(磐田市開業)



骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例



初診時 口腔内所見

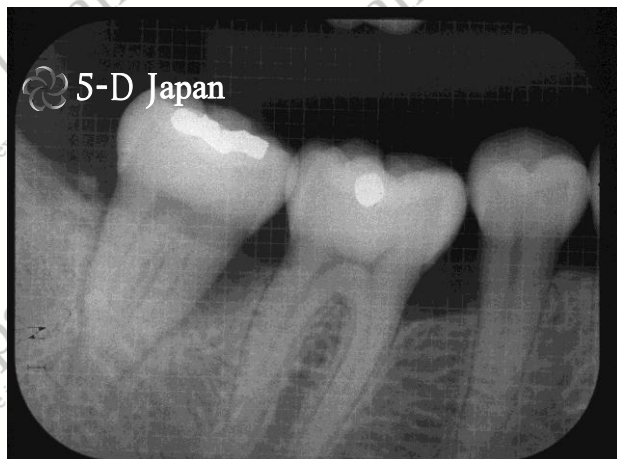
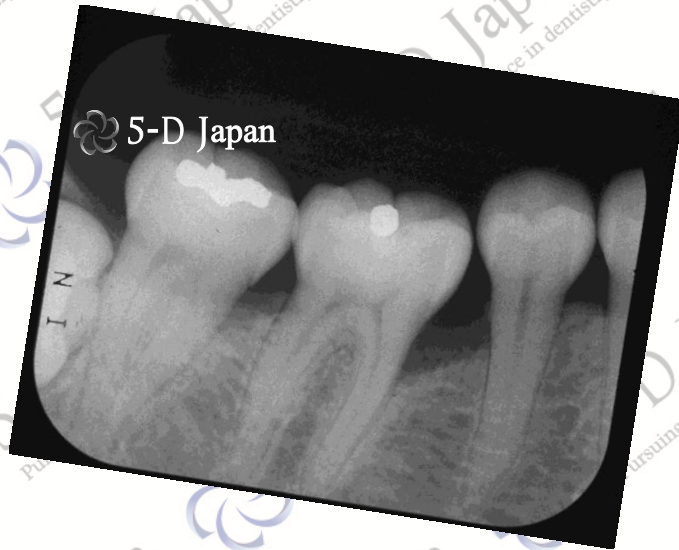
初診日:2002年12月20日 性別:女性 年齢:30歳

主訴:歯肉出血

治療終了日:2007年5月30日

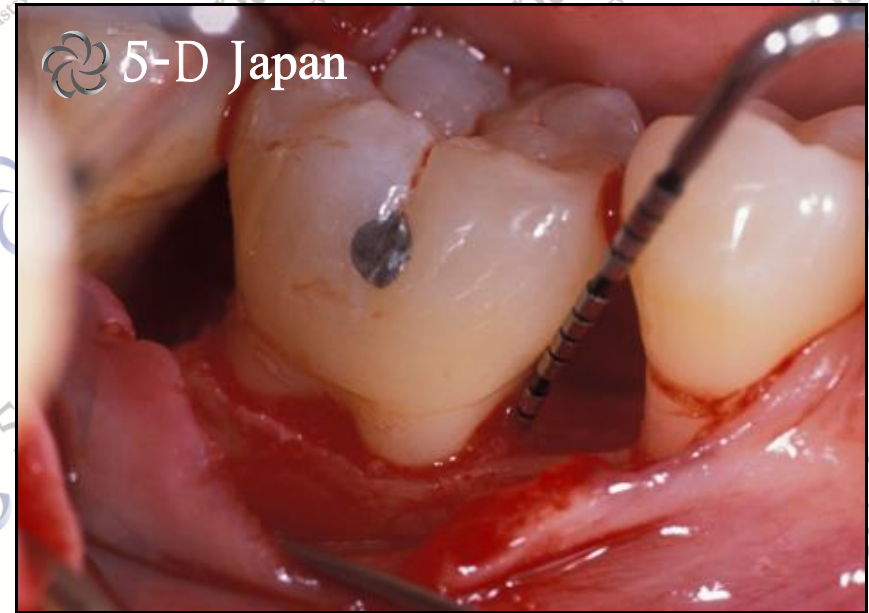
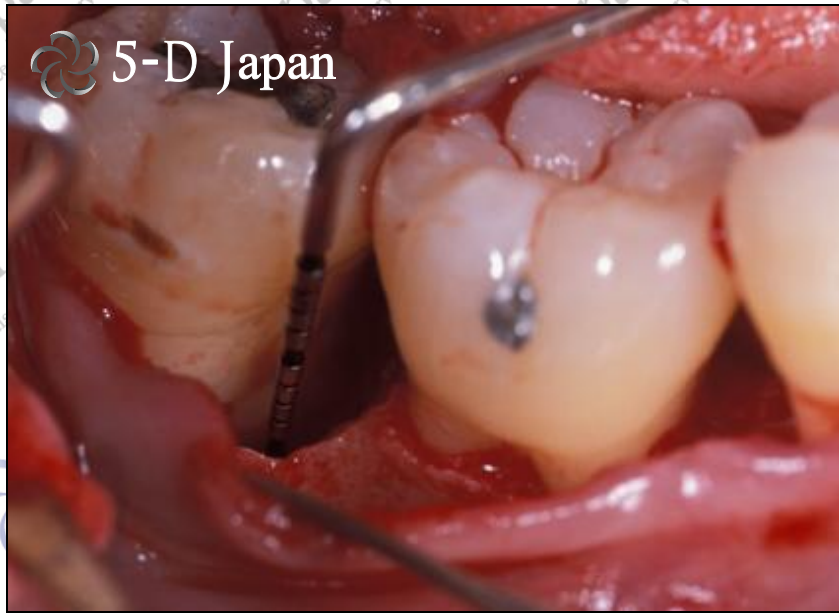
治療方針:骨縁下欠損に対する再生療法を行う。11には歯冠修復を行う。

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例



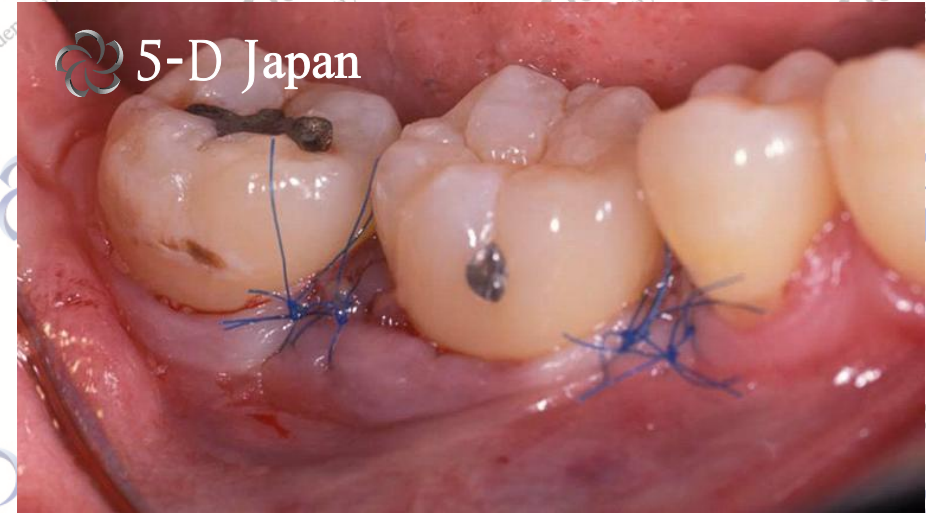
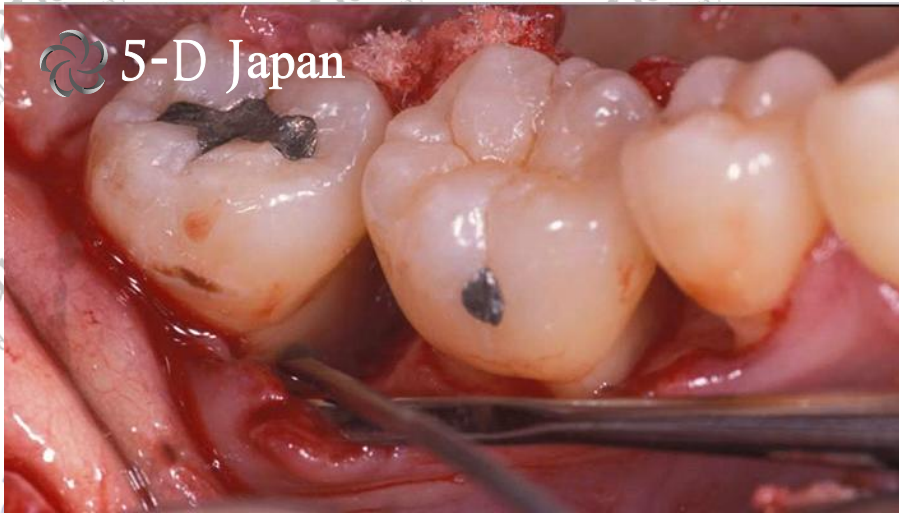
7)メインテナンスにて経過観察中、急性発作発現し、X線から骨欠損の進行が認められた。

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例



再生療法術中：7及び6近心の骨欠損の状態

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例



エムドゲイン(ヨシダ)塗布後骨移植を行い、縫合した。  
Modified papilla preservation technique による切開デザインとしている。

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例

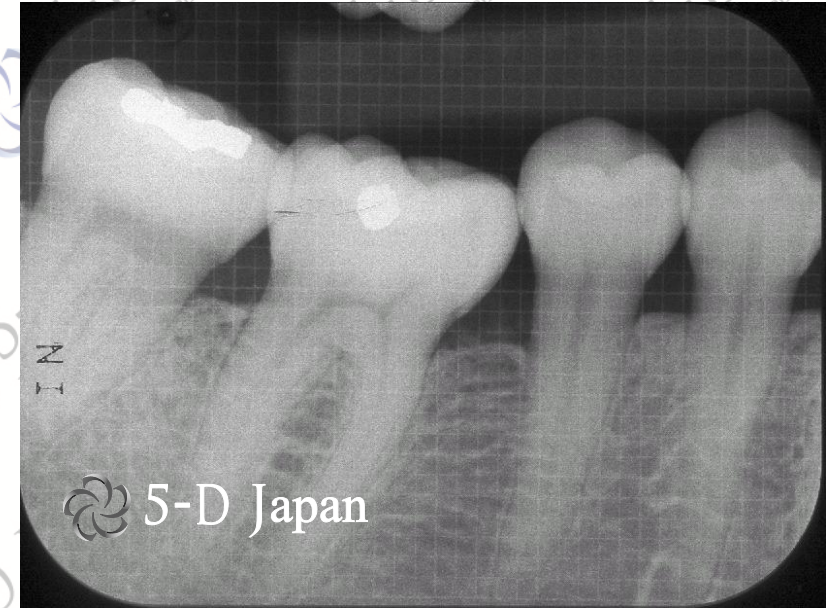
06.10.23

10M After Regeneration



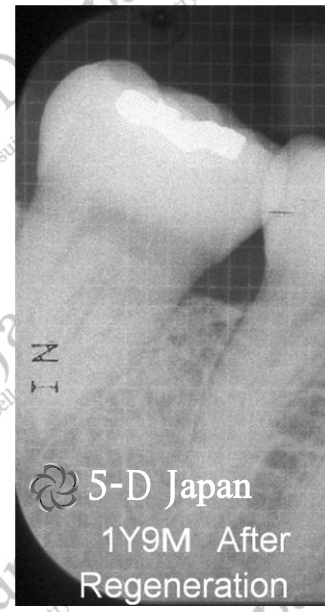
07.07.02

1Y9M After Regeneration



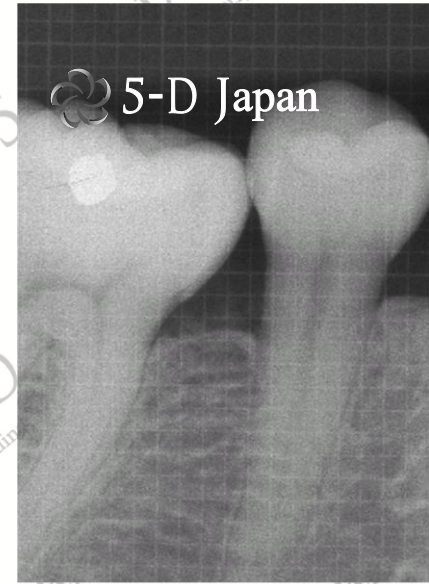
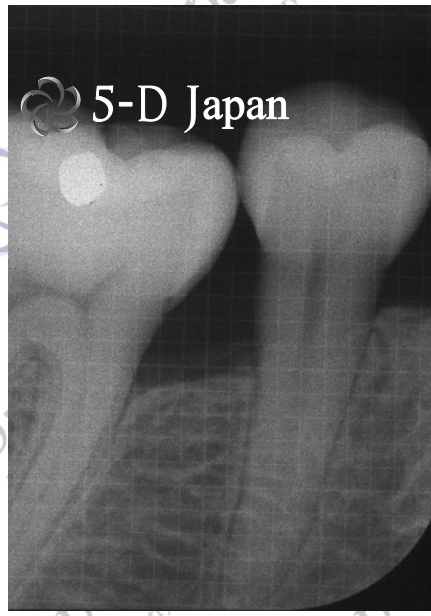
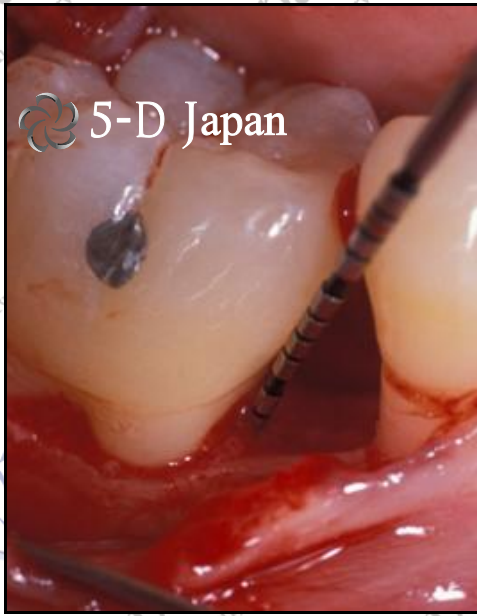
再生療法手術後10か月時より1年9か月のほうがさらに骨レベルが改善されているのが確認される。

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例



7 近心の状態

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例



07.07.02

1Y9M After Regeneration

6) 近心の状態



骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例



術後1年9か月の口腔内所見

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例

06.10.23

07.07.02



6)遠心骨欠損に対する再生療法による変化、2mm程度の骨欠損が残存している。

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例

03.04.12

07.07.02



術前と再生療法後 3 年の状態

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例

03.04.12

07.07.02



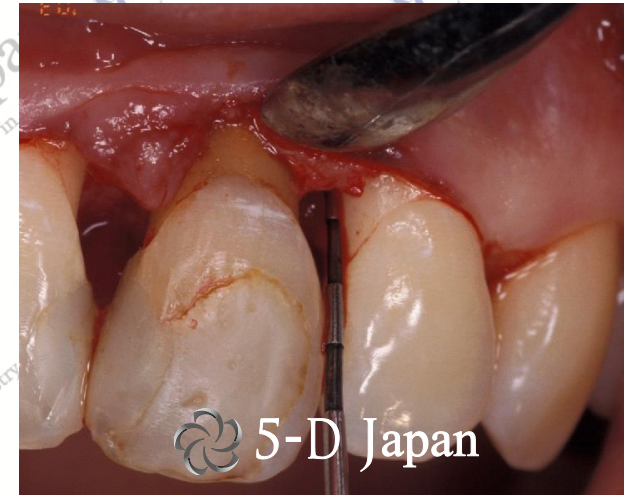
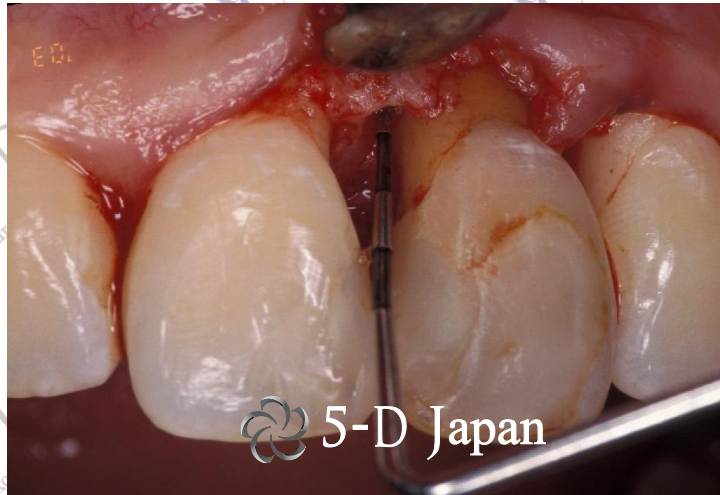
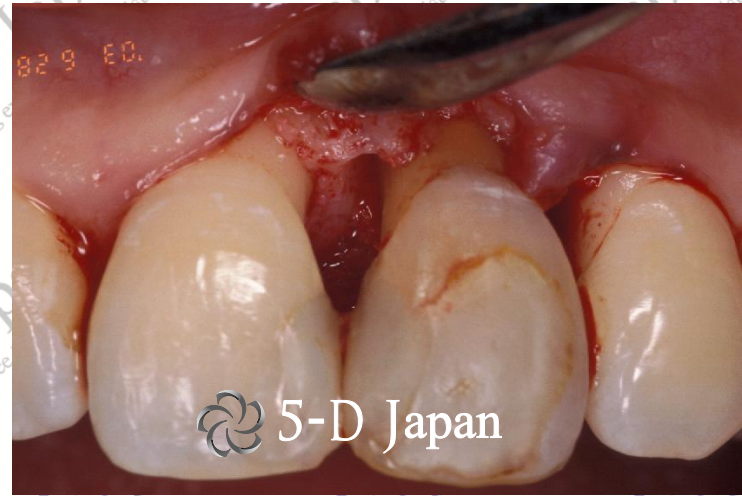
術前と再生療法後 3 年の状態

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例



1 近心、2 近心に垂直性骨欠損が存在し、また1には根尖病変が認められる。

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例



12の骨欠損の状態

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例

03.06.28



05.05.18  
2Y post-op



07.07.26 4Y post-op



再生療法術後、正中歯間空隙が拡大し、1 CR 充填、1 歯冠修復を行うことで空隙の閉鎖を行った。

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例

02.12.20

4Y post op 07.07.02



術前と4年後の状態

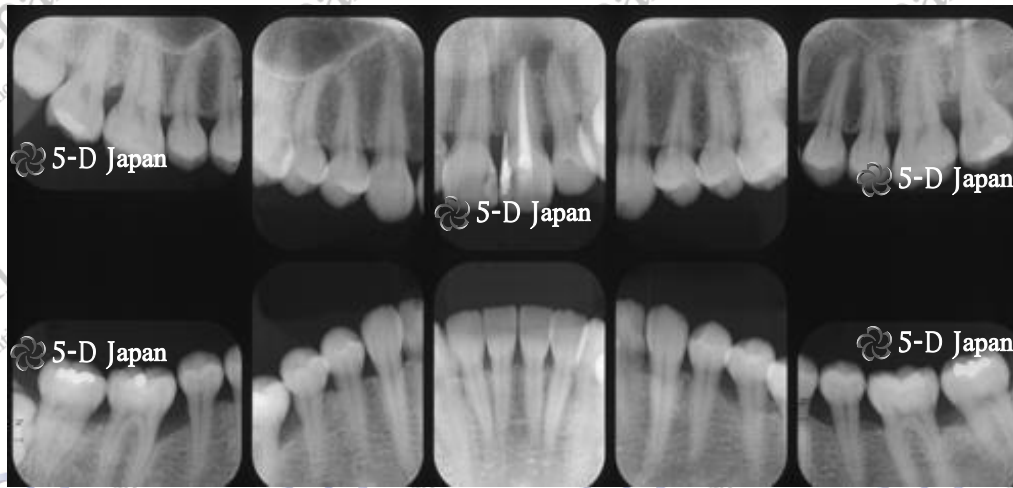


骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例

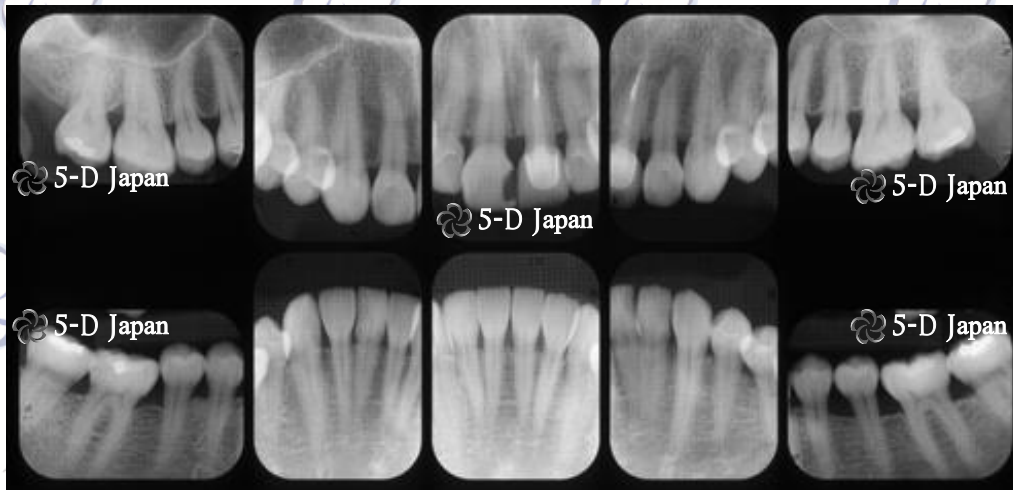


術後の状態

骨縁下欠損にエムドゲインを併用し再生療法をおこなった症例



03.04.12



07.07.02

4Y post op

10枚法 X 線による比較

まとめ:

再生療法を行うことで良好な骨形態が得られ歯周組織の健康を獲得することができたのと同時に、軟組織の高さを失うことなく、審美性を獲得することができ、また根面カリエスのリスクも回避できた。6遠心に残る骨欠損に対して、数年間は経過観察を行いその変化に注意していきたいと思う。ここでリエントリーを行わない理由は、修復の必要はなく、急ぐ必要がないこと、またこれから7.6のように、さらに骨レベルに変化が起こる可能性が否定できないことが挙げられる。